

## 日本史B

### 【解答】

#### I

解答 1	解答 2	解答 3	解答 4
e	c	c	b
解答 5	解答 6	解答 7	解答 8
d	c	a	e

#### II

解答 A	解答 B	解答 C
古今和歌集	源氏物語	尚巴志
解答 D	解答 E	解答 F
コシャマイン	山東京伝	十返舎一九
解答 G	解答 H	
渡辺華山	高野長英	

#### III

問 1
政府は、幕府や諸藩の工場を引き継いで、官営事業に資するとともに、外国人技師を招いて官営工場を設立、経営した。群馬県には、官営模範工場として、富岡製糸場を設立し、フランスの先進技術の導入、普及と工女の養成をはかり、大規模な生糸の生産にあたった。
問 2
紙幣整理、日本銀行の設立、兌換制の確立、官営事業の払下げ政策などをおこなった。この結果、厳しい緊縮政策がデフレを招き、小企業を圧迫した。また、農民は没落したが、資本主義経済の基盤を形成した。

## 【学習アドバイス】

本学の入試は、例年、4科目の選択科目の中から2科目を選択して解答する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となっている。各科目にかける時間配分は、出題の分量にもよるが、1科目につき50分前後の時間を解答時間として考えるべきであろう。

2019年度の問題は、7世紀の律令国家形成過程から、大正時代初期までが出題され、古代・中世・近世・近代とバランスの取れた出題内容となっている。分野では政治史を中心に、外交史・文化史・テーマ史で構成され、大問3題、大問Ⅰは語句の選択による空欄補充形式、大問Ⅱは語句の記述による空欄補充形式、大問Ⅲは120字程度の論述2題の構成となっている。2019年度も2018年度と同様に年代配列問題は出題されなかった。

本学をめざす受験生は、全時代の学習が必要不可欠となる。政治史中心の出題になっているが、政治史にかたよることなく、政治史と関連させて外交史・文化史・テーマ史・社会経済史（2019年度の出題はなし）の学習が大切になってくる。

出題形式は、選択式・記述式が併用されている。選択式は語句の空欄補充、記述式は空欄補充と120字程度の論述に採用されている。問題のレベルは、高校の教科書・用語集の範囲内の標準的なものとなっている。特に選択形式の語句空欄補充問題では、空欄数に対して選択肢が多いので、迅速かつ確実に正解が導き出せるよう、一問一答集などを利用して、普段からの丁寧な学習を心がけよう。記述式の空欄補充問題も出題されている。出題されている語句は、すべて教科書の太字の箇所であり、正確な漢字表記の解答を求められているので、一問一答集を利用する際に、語句を目でみて覚えるだけでなく、手を動かして語句を覚えていこう。

日本史で高得点を取るためには、教科書・塾や予備校のテキスト・用語集を活用しながら、語句・人名などの用語に関して、「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」を重点に置きながら進めていくとよい。そして最後に「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」まで吸収することで、さらに知識・理解が深まっていく。そのような学習は、本学の論述問題に確実に生かされてくる。

本学では、120字程度の論述問題が2題出題されおり（従来は100字程度）、論述問題の成否が合否を大きく左右するだろう。本学の論述問題は、「原因」「理由」ではなく「事項」についての論述であるため、吸収した知識を「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」という形にならぬとよい。受験の基本となる教科書は、そのような流れで記述されているので、太字以外にも注して、熟読することが大切だ。そしてその内容を自分なりにまとめてみるとよいだろう。論述問題は一朝一夕での対応は難しいので、早めの着手が望ましい。論述問題のトレーニングとして、高校や塾・予備校の先生に基本的なレベルの用語の課題を出してもらい、添削指導をしてもらうのが最も効果的な論述対策である。最初は少なめの字数から始めて、徐々に120字まで字数を増やしていくとよいだろう。それを繰り返すことにより、論述問題に対する不安が大きな自信へと変わり、合格へ大きく近づくことになる。

以上のような対策を着実に積んでいけば、必ずやよい結果が出るであろう。